

# 引継式

11/18

木

開会式

基調講演

パネルディスカッション  
メインテーマ

鎌倉の取組紹介

パネルディスカッション  
サブテーマ①



# 引継式

11/19

金

パネルディスカッション  
サブテーマ②

パネルディスカッション  
サブテーマ③

引継式

特別講演

パネルディスカッション  
まとめ

令和3年11月19日(金) 12:30 ~ 13:00

はなかんむり  
「こころの向日葵冠」引継式  
次回開催地 敦賀市 PR

開催地市長挨拶 **松尾 崇氏**  
鎌倉市長

次回開催地紹介 **櫻井 久美子氏**  
敦賀市福祉保健部地域福祉課長

次回開催地市長挨拶 **瀬上 隆信氏**  
敦賀市長

開催地市長挨拶

鎌倉市長 松尾 崇氏



▼松尾：2日間にわたりまして開催をさせていただきましたこのサミットですけれども、残すところこの引継式と、この後、乙武洋匡さんの特別講演、閉会ということを残すのみとなってまいりました。冒頭、村井純先生からデジタルの話ということでスタートしまして、共生社会とデジタルって、何か真逆のものというふうに思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、この共生社会を実現していくのに新しいテクノロジーが、その可能性を感じるというところのヒントにもなったのかなというふうに思います。その後のディスカッションにおきましても、実際に国で政策をつくっていただいている方、そして大学の先生、そしてこの地域の現場で、最前線で、最先端の取組をしている方々のお話というのは大変重みがあって、そして気づきもたくさんありました。もう本当に正しさというのはもう本当人それぞれであり、また、こうあるべきというのも、必要ではありますけれども、それが全てではないということも

改めて感じたところでもあります。この2日間を通じて学んだこと、気づいたこと、こういうことをこれからの政策につなげていくことができたらというふうにも思っており

ます。

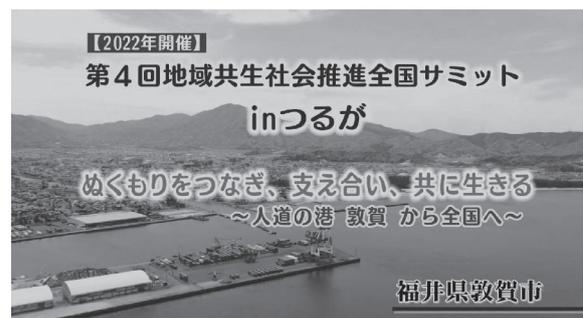
さて、この「<sup>はなかんむり</sup>こころの向日葵冠」ですけれども、前回開催の秋田県湯沢市で作られました。この「<sup>はなかんむり</sup>こころの向日葵冠」は、みんなの心が一つになって新しい時代を明るく照らすようにできればという、こういう思いがこもった<sup>はなかんむり</sup>向日葵冠です。

それでは、次回開催の敦賀市に引継ぎをさせていただきますというふうに思います。

(「<sup>はなかんむり</sup>こころの向日葵冠」 引継ぎ)



▼<sup>はなかんむり</sup>淵上：「こころの向日葵冠」を、第4回地域共生社会推進全国サミットを開催する敦賀市が受け取りました。



11/18  
木

開会式

基調講演

パネルディスカッション  
メインテーマ

鎌倉の取組紹介

パネルディスカッション  
サブテーマ①

11/19  
金

パネルディスカッション  
サブテーマ②

パネルディスカッション  
サブテーマ③

引継式

特別講演

パネルディスカッション  
まとめ

**【司会】** 湯沢市から受け継いだ大会シンボルの「こころの向日葵冠<sup>はなかんむり</sup>」が、松尾崇鎌倉市長から洲上隆信敦賀市長に引き継がれました。

それではここで敦賀市の紹介VTRをご覧ください。どうぞご覧ください。

**【ナレーション】** 2022年開催、第4回地域共生社会推進全国サミット in つるが、ぬくもりをつなぎ、支え合い、共に生きる～人道の港 敦賀 から全国へ～

本州の日本海側ほぼ中央に位置する福井県敦賀市。古くから鉄道と港が整備され、今も昔も関西や中京と北陸を結ぶ日本海側の交通の要衝となっています。2024年春には北陸新幹線の開業を迎えます。

また、敦賀港は「人道の港」として、1920年代にポーランド孤児、1940年代には「命のビザ」を持ったユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。これからの史実を基に、敦賀市民との心温まるエピソードを紹介する資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」では、命の大切さ、平和の尊さを国内外に発信しています。

若狭の海に突き出した敦賀半島に囲まれた海は、波穏やかで、おいしい魚介類の宝庫です。白砂青松の景勝地として知られる名勝「氣比の松原」は、日本三大松原の1つです。北陸道の総鎮守、氣比神宮。1645年（正保2年）に建立された大鳥居は、奈良県の春日大社、広島県の厳島神社と並ぶ日本三大木造鳥居の1つで、国の重要文化財に指定されています。かの松尾芭蕉も、この地を訪れ、「月清し 遊行のもてる 砂の上」と詠んだ句が、おくのほそ道に記されています。

桜の舞う季節、春。桜の名所 金崎宮は「恋の宮」と呼ばれ、春には花換えまつりが行われます。その昔、金崎宮を訪れた男女が桜の小枝を交換して思いを伝え合ったという故事

にちなんだロマンチックなお祭りです。

敦賀の夏の風物詩、「とうろう流しと大花火大会」。毎年8月16日に日本海側最大級の約1万3,000発の花火が夜空を彩ります。夏には市内で10か所もの海水浴場がオープン。敦賀半島の先にある水島は、「北陸のハワイ」とも言われ、透明度の高い海と真っ白な砂浜のコントラストが美しい敦賀の自慢のスポットです。

毎年9月の初めに行われる「敦賀まつり」、神輿渡御や山車巡行などが賑やかに行われ、通りに笛や太鼓が響きます。

敦賀の冬の味覚、「越前ガニ」。ゆでてよし、焼いてよし、鍋でよし、どれをとってもおいしさ間違いなし。

敦賀港に面する金ヶ崎緑地では、毎年LED電球約60万球の光に包まれる北陸最大級のイルミネーション「ミライエ」が行われます。このイルミネーションは、ボランティアにより設置され、電源は全て家庭やお店から集めた使用済みの油から精製されたバイオディーゼル燃料で賄われています。

市民が運動習慣を身につけ、健康づくりに取り組むまちづくりを目指して制作された「つるが元気体操」、敦賀市オリジナルの体操です。この「つるが元気体操」を通じて、地域での元気づくりを広めるボランティア団体「つるが元気体操の会」が毎月1回、体操の講習会を開いたり、各町内に出向き、楽しみながら地域での介護予防活動を行っています。

また、継続してウォーキングすることによる生活習慣病予防への取組として、市民のサポーターと企画した「敦とんウォーク」を月1回開催しています。毎回60人から80人が参加し、多くの参加者が1時間程度ウォーキングを楽しんでいます。

**【参加者】** 毎回来ていますね。達成感があっ

たり、体を動かすというのが気持ちいいから、歩いています。

**【ナレーション】** 敦賀市では、繁忙期の人手が必要な農業者や農業団体と、障害者の就労の機会を増やしたい福祉施設のマッチングを進める農福連携サポート事業を推進しています。福祉施設の利用者たちが敦賀の特産品である東浦みかんや杉箸アカカンバなどの農作業に毎年関わっています。

市内で活動する2つの子ども食堂がネットワーク化し、「つるがこども食堂ネットワーク」として、子育て家庭を応援するため、未利用の食品を集めるフードパントリーと、集まった食品を提供するフードドライブを定期的に行っています。コロナ禍においても、ドライブスルーでも受け取ることができるなど、工夫を凝らした支援を続けています。

敦賀市では、「認知症ほっとけんまち敦賀」をスローガンに、認知症サポーターの養成に力を入れています。小・中学校や地域、職域、団体などで講座を開催し、2021年9月時点の認知症サポーター数は約1万3,000人です。2018年には小・中学生の認知症サポート作文コンテストで最優秀賞に輝いた小学生の作品を原作とした教育映画が制作され、全国の学校をはじめ公民館や図書館など教育機関で閲覧されています。

人道の港の歴史を受け継ぐ人々のぬくもりを、今、そして将来に、さらには全国につなぎ、地域共生社会を推進するため、全国サミットを敦賀市にて開催します。

**【市民】** 敦賀は山あり、海あり、自然がたくさん。

**【市民】** 優しい人もいっぱいいるよ。

**【市民】** 敦賀で楽しく暮らしています。私たちも待っています。皆さん、来てください。

**【一同】** 来てね。

#### 次回開催地紹介

敦賀市福祉保健部地域福祉課長  
櫻井久美子氏



**▼櫻井：** 皆さん、こんにちは。引き続き敦賀市の紹介をさせていただきます。福祉保健部地域福祉課の櫻井久美子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。そして、隣にいるのが、敦賀市公認キャラクターの「ツヌガ君」です。

今ほど見ていただいた敦賀市のPR映像に引き続き、ぜひ皆さんに敦賀に来て、食べていただきたいもの、見ていただきたいものを紹介します。どうぞお付き合いください。

まずは、先ほども出ましたが、皆さんよくご存じの、冬の味覚の王者、「越前ガニ」です。カニ漁の解禁は11月6日からですので、来年のサミット開催時には旬の食べ頃を迎えます。最高級の雄のズワイガニ「極」はおいしいですが、高額です。一方、雌は「セイコガニ」と呼び、雄のズワイガニより一回り小さいですが、カニみそと内子おいしいカニとして、地元ではズワイガニよりも好きだというファンがたくさんいます。お値段もお手頃です。

次に、敦賀湾で育ったお魚を紹介します。「敦賀ふぐ」です。敦賀はトラフグ養殖の日本最北端、寒暖の差が激しい敦賀の海で冬を越すことで、トラフグの身が引き締まるため、うまみも乗っています。てっさ、てっちり

などでフグのおいしさを堪能できます。

次も敦賀湾で育ったお魚です。最近急激に人気が上がってきた「敦賀真鯛」です。冬の日本海という過酷な環境下で養殖されている敦賀真鯛は、急激な水温変化にも耐え抜く強い生命力を持っています。魚の色、身の質、脂の乗りが非常によい真鯛です。お刺身や鯛しゃぶなどでおいしく召し上がっていただけます。

そして、敦賀のソウルフード、「ソースかつ丼」です。県外から帰省したときには必ず食べたい味です。

ここから敦賀市の取組について紹介します。農業と福祉が連携する農福連携サポート事業として、障害者施設の通所者が除草や摘果、収穫などの作業を行っています。

1つ目は東浦みかんです。この東浦みかんは敦賀市東浦地区で栽培されている温州ミカンです。電車の冷凍ミカンによく使われていました。最近は温暖化のためか、酸味と甘さのバランスがよい甘酸っぱいミカンで人気があります。障害者の方が作業に加わったことが紹介され、売上げを伸ばしています。

2つ目は杉箸アカカンバです。この杉箸アカカンバは100年以上栽培されている、敦賀にしかない伝統野菜です。深い赤色とほろ苦い味が特徴で、皮だけでなく、茎、実の中まできれいな赤色をしています。春と秋に種をまき、11月上旬と6月上旬に収穫しています。甘酢漬け、たまり漬け、ぬか漬けなどにして、おいしく食べることができます。こちらも障害者の方が作業に加わり、高齢化した生産者の方に喜ばれています。

また、地域住民が認知症の方を放っておかず、認知症になっても安心して暮らせる町を目指し、「認知症ほっとけんまち敦賀」をスローガンとして、いろいろな事業に取り組んでい

ます。その取組の一つとして、認知症を初期の段階で発見し、早期に対応するなどの支援を連携して行うことを目的に、敦賀市、認知症疾患医療センター、民間の金融機関の3者協定を本年6月に締結しています。来年の全国サミットでは、このような敦賀市における取組事例について詳しくご紹介できればと考えています。

敦賀市では来年「第4回地域共生社会推進全国サミット in つるが」を開催いたします。日程は2022年11月17日（木曜日）から18日（金曜日）の予定です。皆様、どうぞ敦賀市にお越しください。お待ちしております。

次回開催地市長挨拶

敦賀市長 瀧上 隆 信 氏



敦賀市長  
瀧上 隆信

▼瀧上：皆さん、こんにちは。敦賀市長の瀧上隆信です。ただいま松尾鎌倉市長から「このころの向日葵冠」をしっかりと受け取りました。鎌倉市では安心して自分らしく暮らせる地域共生社会を共につくることを目指しておられ、今回の全国サミットのテーマに、「いざ、共生・共創」を掲げられています。自分のことを大切にし、また、他者のことも大切に考え、自分とは違うという多様性を受け入れ、優しく接することはとても大事なことだと私も考えているところです。

私も敦賀市には人道の港という歴史があ

ります。ポーランド孤児や、杉原千畝氏の命のビザを持ったビザ難民を温かく迎え入れた日本人の優しさを、人道の港敦賀ムゼウムという資料館で国内外に発信しています。

このように、優しさやぬくもりを現在につなぐ敦賀市で、地域共生社会推進全国サミットを開催できますことを光栄に思います。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今回の鎌倉市の全国サミットはオンライン開催という、これまでにない形式での開催となり、開催に当たり、並々ならぬご労苦とご努力があったことと拝察いたします。松尾鎌倉市長を初め、鎌倉市の職員及び関係者の皆様に心からの敬意を表します。

来年は新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、全国から多くの皆さんが敦賀市に来ていただけるよう、万全の態勢で準備を進めております。人道の港としての歴史があり、人の優しさやぬくもりがある敦賀市で、来年11月17日、18日にお会いしましょう。

11/18  
木

開会式

基調講演

パネルディスカッション  
メインテーマ

鎌倉の取組紹介

パネルディスカッション  
サブテーマ①

11/19  
金

パネルディスカッション  
サブテーマ②

パネルディスカッション  
サブテーマ③

引継式

特別講演

パネルディスカッション  
まとめ